

生地竹郎先生著作目録

The Bibliography of Oiji Takero

二 瓶 浩 明

NIHEI Hiroaki

○要旨

This is the bibliography of Professor Oiji Takero, who taught at Sophia University and Tohoku University. He was an expert of the Middle English Literature in Japan. And I learned from him English and Greek. I respect his honesty and deep knowledge.

He was dead twenty five years ago but his writing work list has not been filled enough yet. I hope this list is complete.

○キーワード

中世英文学、チョーサー、ウィリアム・モリス、カトリシズム、ギリシャ語

The Middle English Literature Chaucer William Morris

Catholicism Greek Teaching

これは中世英文学研究の泰斗で、元上智大学教授、東北大学教授の生地竹郎先生が遺した著作の目録である。

先生は私の恩師のひとりであり、学生時代に「英語」と「ギリシャ語」を教わったのであるが、そのみならず人格的に深く傾倒し、一口には言い表しがたいさまざまな恩を賜り、敬愛の念ひとかならずぬものをおぼえている。先生が亡くなられて、すでにかかなりの年月が経っているが、現在、その卓越した仕事や業績が一覧できるような状況にないことを悲しみ、ここにその著作リストを編纂しようと試みたものである。

本稿は私の研究課題の1つである「書誌編纂」というテーマに基づくものであり、こうした観点から私はすでに幾つかの研究成果を世に問うて、幸いにして高い評価を得ているが、その例を挙げれば『近代文学書誌大系 宮本輝書誌』（和泉書院、1992）、『桐山襲と日本現代文学のために 書誌1984—1992』（私家版、1992）、『佐伯一麦著作目録』『年譜』（講談社文芸文庫『ショート・サーキット』巻末、2005）、『保昌正夫著書目録』（雑誌『サンパン』第Ⅲ期第4号、2003）等がある。

本稿「生地竹郎先生著作目録」は、こうした系譜につながる研究書誌の一環ということができらる。日本における英文学研究という領域にあっては、こうした書誌の作成や、研究史の伝統を踏襲する、分類するという指向性に弱いところがあり、その意味でもこの著作目録が、有益かつ十分な意義を持つものであろうことに疑いはない。

その研究業績については、西洋中世の英文学、チョーサーやラングランド、ミルトン、トマス・モア、さらにはルネサンス期の文学、ジョン・ダン、T・S・エリオット、ウィリアム・モリスなどの近現代文学、思想、文化への考察など、幅広いものが見られ、キリスト教文学の考察や、内村鑑三など、その日本への伝搬のありかた、意義についても、当該研究分野のパイオニアとしての画期的、かつ歴史的な意義を有している。また日本におけるホメーロスの受容のあり方を検証し、ギリシャ語教育の普及に務めるなど、浩瀚な学識と高潔かつ親しみやすい人格とによって、高く評価されてはいるものの、その著作活動の全体像を知るためのツールがきわめて不十分であった。その整備をし、伝え、学び直す目的を本稿は有している。

先生の年譜と著作一覧については、「生地竹郎教授追悼」と題された上智大学文学部英文学科発行の機関誌「英文学と英語学」第17号（1981年3月発行）に掲載されているものの、年譜が2頁、著作一覧が3頁のもので、その著作については量的にも随分と不十分で、間違いも多く、かなり不満の残るものとなっている。先生が所属した学会や関係した集団の発行する雑誌を広く探したものの、追悼文や思い出を語るものを見い出しても、その業績、著作について記すものは少なく、研究者として、教育者として、大学人としての先生の業績、人となりを知り、学び、永く残すために、本稿が役立つことを信じている。

本書誌において先生の著作の九割以上は網羅し得たと信ずるが、学生団体誌・紙、教会関連誌・紙、また学内誌・紙等に掲載された随筆や挨拶のたぐいについて、うまく調べられないでいることを遺憾とする。

分類法としては「英文学と英語学」第17号所載の「生地竹郎教授著作一覧」にならって、Ⅰ著書、Ⅱ翻訳、Ⅲ研究論文という区分を設け、Ⅳ書評・エッセイ、Ⅴその他という区分をあらたに設定した。表記の仕方は一見して明瞭であり、どんな不審もないであろうが、書物と雑誌とで多少の順序を変えている。著作タイトル（括弧内は副題もしくはシリーズ・記事名）、単著・共著の別、出版社・発表誌、巻号、発行年月日、発行所・発行機関、所収頁等の書誌要件を満たしている。特記事項については★印を付した。

I 著書

○『英文学試論』（土居光知先生喜寿記念論文集）〈共著〉

「CHAUCERのPLOWMAN」(P 7-12)

土井光知先生喜寿記念論文集編集委員会編

1964年8月20日発行、研究社刊

- 『ジョーサーとその周辺』〈共著〉
 生地竹郎編、伊藤正義・鈴木栄一との共著
 1968年10月15日発行、文理書院刊、本文281頁、索引12頁
 全12章のうち、第4、5章は伊藤、第8、9章は鈴木執筆。
- 『農夫ピアズの夢（1）』（篠崎英米文学研究双書 第14冊）〈単著・注釈〉
 1968年10月25日発行、篠崎書林刊
 INTRODUCTION 126頁、本文・INDEXとも141頁
- 『農夫ピアズの夢（2）』（篠崎英米文学研究双書 第15冊）〈単著・注釈〉
 1969年1月25日発行、篠崎書林刊
 NOTES・APPENDICES・GLOSSARYとも307頁
- 『比較文学講座 第4巻 日本近代評論—比較文学的に見た—』〈共著〉
 「内村鑑三」(P148—175)
 中島健蔵・太田三郎・福田陸太郎編
 1974年2月20日発行、清水弘文堂刊
- 『ミルトン研究 17世紀英文学研究—Ⅰ—』〈共著〉
 「『闘技者サムソン』の主人公」(P101—118)
 17世紀英文学研究会編
 1974年4月1日発行、金星堂刊
- 『欧米作家と日本近代文学 英米篇Ⅱ』〈共著〉
 「ミルトン」(P9—40)
 福田光治・剣持武彦・児玉晃一編
 1975年6月6日発行、教育出版センター刊
- 『ルネッサンス双書1 英国ルネッサンスと宗教—モアからミルトンまで—』〈共著〉
 「ミルトンのピューリタニズム—歿後三百年にちなんで—」(P159—201)
 ルネッサンス研究所編 石井正之助・ピーター・ミルワード監修
 1975年10月1日発行 荒竹出版刊
- 『十四世紀の英文学』〈単著〉
 1976年4月7日発行、文理刊、本文283頁、索引10頁
- 『OEDIPUS TYRANNUS』〈共著〉〈教科書〉
 L・バーコヴィッツ、T・F・ブランナー訳、原研二との共編注
 1977年3月10日発行、英宝社刊、序ならび本文120頁
- 『薔薇と十字架—英文学とキリスト教—』〈単著〉
 1977年4月7日発行、篠崎書林刊、本文381頁、索引19頁
- 『ルネッサンス双書6 中世とルネッサンス』〈共著〉
 「テューダー王朝における農夫ピアズの運命」(P105—137)

ルネッサンス研究所編 生地竹郎・ピーター・ミルワード監修
1977年11月15日発行、荒竹出版刊

○『比較文学辞典』〈共著〉

「内村鑑三」(P41-42) 「ミルトン」(P284-285)

松田穰編

1978年1月30日発行、東京堂出版刊

○『The Bible』〈共著〉〈教科書〉

高田恵利子との共編注

1978年3月2日発行、1979年改訂版、1992年三訂版

英宝社刊、序20頁・本文120頁・注81頁

○『ルネッサンス双書7 ルネッサンス期の神秘思想』〈共著〉

「中世イングランドの神秘思想と文学」(P3-27)

ルネッサンス研究所編 生地竹郎・ピーター・ミルワード監修

1978年7月10日発行、荒竹出版刊

○『受容の軌跡 西欧思潮と近代日本』〈共著〉

「日本におけるホメーロスの受容」(P69-88)

高柳俊一編

1979年3月31日発行、南窓社刊

○『The Apology of Socrates with the Last Passages of Phaedo』〈単著〉〈教科書〉

B・ジョエット訳

1979年11月20日発行、北星堂書店刊、序11頁・本文ならび注78頁

○『ルネッサンス双書8 ルネッサンスと現代』〈共著〉

「ダンとT・S・エリオット」(P97-134)

ルネッサンス研究所編 生地竹郎・ピーター・ミルワード監修

1979年7月5日発行、荒竹出版刊

○『The Canterbury Tales』〈共著〉〈教科書〉

R・M・ルミアンスキー訳、式井久美子との共編注

1980年2月25日発行、英宝社刊、序・本文・注とも140頁

○『ルネッサンス双書10 ミルトンの悲劇『サムソン・アゴニスティーズ』』〈共著〉

「問題の所在」(P3-31)

ルネッサンス研究所編 生地竹郎監修

1980年11月10日発行、荒竹出版刊

Ⅱ 翻訳

- ウィリアム・モリス『ジョン・ボールの夢』〈単著〉
「王様の教訓」「余はいかにして社会主義者となりしか」を含む
1973年5月1日発行、未来社刊、本文・訳者解説・訳者あとがきとも212頁
- 『小学館ランダムハウス英和大辞典』〈共著〉
一部翻訳 編集委員会に所属
第1巻 1973年10月1日発行、小学館刊
第2巻 1974年2月1日発行、小学館刊
第3巻 1974年6月1日発行、小学館刊
第4巻 1974年10月1日発行、小学館刊
- ウィリアム・ラングランド『ウィリアムの見た農夫ピアズの夢』〈単著〉
1974年4月10日発行、篠崎書林刊、本文・解説・関係年表・参考文献とも284頁
★1974年度 第11回日本翻訳文化賞 受賞
- ピーター・ミルワード「ルネッサンスと宗教」
「ソフィア」1974年冬季、第23巻第4号
1974年12月30日発行、上智大学、P 3-21
上記は同題で、下記に収録されている。
『ルネッサンス双書1 英国ルネッサンスと宗教』
1975年10月1日発行、荒竹出版刊、P 3-29
- 『G・K・チェスタトン著作集6 久遠の聖者』〈単著〉
「アシジの聖フランチェスコ」「聖トマス・アキナス」の両書
1976年12月8日発行、春秋社刊、本文・あとがきとも394頁
- ピーター・ミルワード「トマス・モア生誕五百年を祝う」
「ソフィア」1978年夏季、第27巻第2号
1978年7月15日発行、上智大学、P175-181
- 『キリスト教史 第3巻 中世キリスト教の成立』〈共著〉
L・J・ロジェ、R・オーベール、M・D・ノルウズ
上智大学中世思想研究所 編訳／監修
翻訳は、別宮定徳・生地竹郎
1981年2月25日発行、講談社刊、序言・本文とも425頁、付録83頁
のち、平凡社ライブラリーに所収

Ⅲ 研究論文

- 宗教劇としての「コクテル・パーティ」
「宮城学院女子大学 研究論文集」第2号
1952年12月10日発行、宮城学院女子大学、P105-122
- T.S.Eliotの回心
「山形大学紀要（人文科学）」第3巻第2号
1954年11月27日発行、P135-158
- 第二次世界大戦後のイギリスに於けるキリスト教作家とその問題
—Nicholson, Morgan, Greene, Eliotの劇を中心として—
「山形大学英語英文学研究」第1号
1955年4月15日発行、山形英語英文学会、P33-53
- 中世詩“Pearl”管見
「英米文学」第3集
1955年12月20日発行、東北英語英文学会、P60-71
- T.S.Eliotの“The Family Reunion”
「山形大学英語英文学研究」第2号
1956年1月31日発行、山形英語英文学会、P71-86
- 英国中世詩“PEARL”考
「山形大学紀要（人文科学）」第3巻第3号
1956年3月25日発行、P227-263
- 中世詩「真珠」の解釈について
「東北大学教養部 文科紀要」第4集
1959年10月15日発行、P160-172
- WHY DID PIEARS REND HIS PARDON ASUNDER?
—A Personal Approach to the Pardon Scene—
「東北大学教養部 文科紀要」第5集
1960年3月20日発行、P 1-15
- ウィクリフ派信徒の宗教詩（その一）—「農夫ピェルスの信経」について—
「東北大学教養部 文科紀要」第7集
1961年3月31日発行、P113-124
★土井光知教授記念第1回青葉文学賞 受賞
- THE MIDDLE ENGLISH PEARL AND ITS THEOLOGY
「英文学研究（英文号）」1961
1961年3月31日発行、日本英文学会、P39-57

- Pierce the Ploughmans Crede 及びThe Plowmans Tale における Sacramentum Altaris について
「東北大学教養部 文科紀要」第9集
1962年3月15日発行、P116-128
- 最近のPearl研究
「試論」第6集
1964年6月1日発行、東北大学「試論」同人会、P115-125
- ミルトンの「復樂園」におけるキリスト
「東北大学教養部紀要」第1号
1965年3月1日発行、P91-107
- 1381年の農民戦争と英文学
「季刊英文学」第3巻
1966年8月発行、あぼろん社、P202-214
- 中世詩Pearl再考
「英語青年」1966年10月号、第112巻第10号
1966年10月1日発行、研究社、P8-10
- WYNNERE AND WASTOURE試論—その政治的、経済的、宗教的姿勢について—
「英文学研究」第43巻第1号
1966年10月15日発行、日本英文学会、P1-14
- Piers Plowmanの周辺—特にDeath and Liffe, Der Ackermann及びJack Upland論争について
(その一)
「東北大学教養部紀要」第6号
1967年3月31日発行、P1-20
- 聖書釈義学派の中世文学研究法（「西洋における文芸研究の方法」特集）
「文藝研究」第56集
1967年7月20日発行、日本文芸研究会、P54-58
- ブゼル先生と二高生
「二高尚志」第33巻第5号
1967年9月発行、第二高等学校尚志同窓会、P28-32
- 英学者内村達三郎
「英語青年」1969年6月号、第115巻第6号
1969年6月1日発行、研究社、P20-22
- Four Figures of Piers the Plowman
「東北大学教養部紀要」第12号
1971年2月25日発行、P23-46

- 内村達三郎とミルトン—宮西光雄氏に批判にこたえる—
「英語青年」1972年1月号、第117巻第10号
1972年1月1日発行、研究社、P60
- 嘆息と祈り《『恋人の告解』序歌におけるガワー》
「文化」第36巻第3号
1972年12月25日発行、東北大学文学会、P213—234
- 内村達三郎一人と業績—
「東北大学教養部紀要」第17号
1973年2月25日発行、P135—163
- The Book of the Duchess論
「東北」第8号
1973年5月15日発行、東北学院大学大学院文学研究科、P 1—13
- 中世への憧憬と革命への夢—William MorrisのA Dream of John Ball
「英語青年」1973年11月号、第119巻第8号
1973年11月1日発行、研究社、P 8—9
- 正統擁護の文学者—『G・K・チェスタトン著作集』発刊に寄せて—
「ソフィア」1973年冬季、第22巻第4号
1974年2月15日発行、上智大学、P73—81
- チャーサーの『鳥の議會』—その倫理的宗教的性格について
「英文学と英語学」第10号
1974年3月10日発行、上智大学英文学科、P 9—22
- 中世文学における告解の秘跡—十四世紀の英詩の場合—
「ソフィア」1974年春季、第23巻第1号
1974年5月31日発行、上智大学、P36—56
- 内村鑑三とその弟・達三郎
「内村鑑三研究」第2号
1974年6月発行、キリスト教図書出版社、P28—55
- SIR GAWAIN AND THE GREEN KNIGHTにおけるCATHOLICISM
「英文学研究」第51巻第1・2号
1974年11月30日発行、日本英文学会、P 5—21
- チャーサーの『女子修院長の話』—翻訳と解釈—
「英文学会誌—英語学・英文学論集—」第3号
1974年12月1日発行、宮城学院女子大学学芸学部英文学会、P 1—10
- ラングランド研究の先駆、Ikuzo Iijima
「英語青年」1975年1月号、第120巻第10号

- 1975年1月1日発行、研究社、P20-21
- Milton and Japan
「比較文学」第18巻
1975年10月31日発行、日本比較文学会、P 1-34
- 宗教と文学—T・S・エリオットの一面—
「ソフィア」1975年冬季、第24巻第4号
1976年1月15日発行、上智大学、P 3-21
- Refutatio contra Refutationem Domini Takizawa
「SYLVAN」第19・20号
1976年9月30日発行、シルヴァン同人会、P99-105
- チャーサーはカトリック的ではないのか
「英語文学世界」1976年12月号、第11巻第11号
1976年11月20日発行、英潮社、P 6-9
- 英文学の研究とキリスト教（1）
「英語青年」1976年12月号、第122巻第9号
1976年12月1日発行、研究社、P 2-3
- 英文学の研究とキリスト教（2）—祈禱書と典礼の知識の必要性—
「英語青年」1977年1月号、第122巻第10号
1977年1月1日発行、研究社、P14-16
- 英文学の研究とキリスト教（3）—Catholicism研究の必要性—
「英語青年」1977年2月号、第122巻第11号
1977年2月1日発行、研究社、P 6-8
- チャーサーの作品におけるエロース
「SYLVAN」第21号
1977年12月15日発行、シルヴァン同人会、P16-24
- 内村鑑三の比較文化的研究
「英語青年」1978年2月号、第123巻第11号
1978年2月1日発行、研究社、P22-23
- グレーム・グリーン『事件の核心』におけるキリスト教
「英文学と英語学」第14号
1978年2月18日発行、上智大学英文学科、P53-69
- 近代へのレジスタンス—T・S・エリオットとC・S・ルイスの場合—
「実践英文学」第14号
1978年12月10日発行、実践英文学会、P 1-13
- 『オイディプス王』の悲劇性（一）

「清泉女子大学紀要」第26号

1978年12月25日発行、P235-248

○古英語・中英語における言語と宗教

「SYLVAN」第22号

1979年3月15日発行、シルヴァン同人会、P1-16

○中英語の文学と歴史—特にGowerとLanglandとにふれて—(歴史と文学2)

「英語教育」1979年5月号、第28巻第2号

1979年5月1日発行、大修館書店、P38-39

○日本におけるホメーロス学

「比較文学」第22巻

1979年12月25日発行、日本比較文学会、P17-27

○『灰の水曜日』—その典礼的背景

「清泉女子大学紀要」第27号

1979年12月25日発行、P18-36

○T.S.Eliotにおける救済—詩劇に焦点をあてて

「英文学と英語学」第16号

1980年2月5日発行、上智大学英文学科、P24-45

○Piers Plowman, A Text, VitaにおけるLanglandの宗教思想

「SYLVAN」第23号

1980年3月31日発行、シルヴァン同人会、P1-11

○中世イングランドの文学とキリスト教

「英文学と英語学」第17号

1981年3月15日発行、上智大学英文学科、P3-31

IV 書評・エッセイ

○安田章一郎著「文学の周辺—T・S・エリオット論」(批評紹介)

「英文学研究」第35巻第1号

1958年11月30日発行、日本英文学会、P147-148

○「英米文学史講座 第一巻 中世」 榊井迪夫著「チャーサー研究」(書評)

「試論」第5集

1963年3月31日発行、東北大学「試論」同人会、P84-87

○学生向きのGavin Douglas入門書 Selections from Gavin Douglas (BOOKS FROM ABROAD)

「英語青年」1964年10月号、第110巻第10号

1964年10月1日発行、研究社、P38-39

- 吉田新吾著「チョーサー研究」 Isamu Saito, A Study of Piers the Plowman (書評)
「試論」第9集
1967年3月31日発行、東北大学「試論」同人会、P83-88
- 一般教養の英語—なぜ問題は解決しないか—
「英語文学世界」1967年8月号、第2巻第5号
1967年7月10日発行、英語文学世界社、P38-39
- 越えてはならぬ線—中世アレゴリ解釈の限界— (特集・文学の理論)
「英語文学世界」1969年9月号、第4巻第6号
1969年8月10日発行、英潮社、P34-37
- P.M.Kean : The Pearl, an Interpretation & Ian Bishop : Pearl and its Setting (海外新潮)
「英文学研究」第46巻第2号
1970年3月30日発行、日本英文学会、P166-172
- ロマンス研究の成果を問う Eugène Vinaver : The Rise of Romance (BOOKS FROM ABROAD)
「英語青年」1972年5月号、第118巻第2号
1972年5月1日発行、研究社、P46
- 教養語学の今昔 (特集・大学の語学教育)
「英語文学世界」1972年11月号、第7巻第8号
1972年10月20日発行、英潮社、P36-37
- 『チョーサーの「トロイラス」論』上野直蔵著 (新刊書架)
「英語青年」1973年1月号、第118巻第10号
1973年1月1日発行、研究社、P50
- モリスの見た夢 (特集・小説論)
「英語文学世界」1973年7月号、第8巻第4号
1973年6月20日発行、英潮社、P29
- 地の塩・世の光 (山浦拓造教授古稀記念)
「弘前学院大学英米文学」第1号
1974年3月31日発行、弘前学院大学英語英文学会、P35-36
- 青木巖著『イギリスの詩—西洋古典詩との比較論』(書評)
「比較文学」第17巻
1974年10月31日発行、日本比較文学会、P75-77
- J.A.W.Bennett (ed.) : Langland, Piers Plowman : The Prologue and Passus I—VII of the B text as found in Bodleian MS. Laud Misc.581. (海外新潮)
「英文学研究」第51巻第1・2号
1974年11月30日発行、日本英文学会、P176-180
- 教会用語のために弁ず (EIGO CLUB)

- 「英語青年」1974年11月号、第120巻第8号
1974年11月1日発行、研究社、P44
- 再び教会用語について (EIGO CLUB)
「英語青年」1975年4月号、第121巻第1号
1975年4月1日発行、研究社、P44
- 平井正穂編『ミルトンとその時代』(批評紹介)
「英文学研究」第52巻第1、2号
1975年12月1日発行、日本英文学会、P194-198
- 愛の師の影一師弟一 (特集=人間関係)
「世紀」1976年4月号
1976年4月1日発行、上智大学内「世紀」編集室、P30-38
- 未開領域への挑戦—渡部昇一著『英語学史』の発刊に寄せて—
「ソフィア」1976年春季、第25巻第1号
1976年4月30日発行、上智大学、P66-76
- 江藤淳著『漱石とアーサー王伝説—『薙露行』の比較文学的研究』(書評)
「比較文学」第19巻
1976年12月20日発行、日本比較文学会、P86-89
- カトリック用語雑感
「ソフィア」1976年冬季、第25巻第4号
1976年12月30日発行、上智大学、P206-207
- 新しい英詩史 Derek Pearsall: Old English and Middle English Poetry (BOOKS FROM ABROAD)
「英語青年」1977年8月号、第123巻第5号
1977年8月1日発行、研究社、P33
- 『薔薇と十字架』について (Afterthoughts)
「英語青年」1977年9月号、第123巻第6号
1977年9月1日発行、研究社、P31
- レキュザントの復権のために—ミルワード神父の新著に寄せて—
「学燈」1977年9月号、第74巻第9号
1977年9月5日発行、丸善、P16-19
- 満たされざるもまたよし (特集=欲求不満)
「世紀」1977年11月号
1977年11月1日発行、上智大学内「世紀」編集室、P 4-12
- 英国ルネッサンス研究の穴を埋める Peter Milward: Religious Controversies of the Elizabethan Age,
A Survey of Printed Sources (BOOKS FROM ABROAD)
「英語青年」1977年12月号、第123巻第9号

- 1977年12月1日発行、研究社、P37
- 亀井俊介著『内村鑑三—明治精神の道標』（書評）
「比較文学」第20巻
1977年12月25日発行、日本比較文学会、P85—89
- 松波有・御輿員三著『詩 I』（講座英米文学史 1）（新刊書架）
「英語青年」1978年3月号、第123巻第12号
1978年3月1日発行、研究社、P39
- パッコスの信女
「ソフィア」1978年春季、第27巻第1号
1978年4月15日発行、上智大学、P46—48
- 小林淳男先生と中世英文学
「英語青年」1978年9月号、第124巻第6号
1978年9月1日発行、研究社、P27
- 研究展望：中世英文学—英文学会大会シンポジウムにふれて—
「英語青年」1978年10月号、第124巻第7号
1978年10月1日発行、研究社、P94—95
- 人生の試練を経て（特集＝思いやりの心）
「世紀」1978年12月号
1977年12月1日発行、上智大学内「世紀」編集室、P21—29
- ジェイムズ朝の宗教論争—P・ミルワード神父の新著に寄せて
「学燈」1979年2月号、第76巻第2号
1979年2月5日発行、丸善、P20—23
- ジェイムズ朝宗教論争文書の文献解題 Peter Milward : Religious Controversies of the Jacobean Age. A Survey of Printed Sources (BOOKS FROM ABROAD)
「英語青年」1979年3月号、第124巻第12号
1979年3月1日発行、研究社、P31
- 英仏米の現代劇と楽書 Sister Marie Philomène de los Reyes, The Biblical Theme in Modern Drama (BOOKS FROM ABROAD)
「英語青年」1979年6月号、第125巻第3号
1979年6月1日発行、研究社、P34—35
- D・H・ファーマー著 オクスフォード聖人辞典（書評）
「学燈」1979年10月号、第76巻第10号
1979年10月5日発行、丸善、P60—61
- Sister Marie Philomène de los Reyes, SPC : The Biblical Theme in Modern Drama（書評）
「比較文学」第22巻

1979年12月25日発行、日本比較文学会、P80-83

- 実用的で簡便なチャウサー辞典 Norman Davis et al. : A Chaucer Glossary (BOOKS FROM ABROAD)

「英語青年」1980年1月号、第125巻第10号

1980年1月1日発行、研究社、P31

- 土井光知先生小伝

「英語青年」1980年4月号、第126巻第1号、

1980年4月1日発行、研究社、P27-28

- 齋藤勇著『中世のイギリス文学—聖書との接点を求めて』（書評）

「英文学研究」第57巻第1号

1980年9月1日発行、日本英文学会、P41-45

V その他

- （座談会）中世イングランドのキリスト教と文学—十四世紀後半を中心として—

「教養論争」第38号 出席者：生地竹郎、都留久夫、池上忠弘、津田昌

1974年7月31日発行、慶應義塾大学法学研究会、P41-66

これとは別に、父・生地竹之助の著作・事績をまとめた『軍人生活三十年』（A4版、78頁）1960年2月25日発行（コルネリオ社取次）の編纂書がある。